

ハウスミカンの成熟期における地温冷却が樹体、果実品質に及ぼす影響

大谷衛・豊嶋貴司*・森末文徳・野田啓良

早期加温ハウスミカンにおいて 5 月中旬から 6 月下旬までの間、地温を 11~12°C に下げる処理を行い、樹体及び樹体の周辺環境、果実品質等に及ぼす影響を検討し、以下の結果を得た。

1. 樹体放射温度は晴天日においては主幹部、樹冠内部で低下したが、曇天日においては差は見られなかった。
2. 冷却処理により、葉の水ポテンシャルはほぼ調査全期間を通して低くなり、光合成速度は低下する傾向であったが、細根活性は高くなった。
3. 冷却処理による果実肥大の抑制は認められなかったが、着色促進効果が認められた。また、果皮の紅が濃くなったが、糖度計示度及びクエン酸濃度については明らかな傾向を認めなかった。
4. 地温冷却を 3 年間連続処理した樹では、無処理樹に比べ長く、面積の広い葉が着生した夏枝が収穫後に発生した。また、細根は、深さ 20~40cm の範囲で発生が多かった。

キーワード:ハウスミカン,地温,冷却,成熟期,ストレス